

CONTENTS

表紙

十代目 松本幸四郎

2

INTERVIEW:1

「松竹大歌舞伎」

全身全霊を込めて、

一期一会の舞台を勤めてまいります。

松本白鸚 松本幸四郎

4

TOPICS

野村万作・野村萬斎 狂言公演2019

狂言「鮎」の味わい深さ

6

INTERVIEW:2

立川志の輔 独演会

「聞く気とやる気」

交わる「場」づくりから始まる

「志の輔らくご」

立川志の輔

8

INTERVIEW:3

「お気に召すまま」

今は何も考えず

「タッチストーン」を演じます。

温水洋一

10

PURA PURA

バロコの寄り道ぶらぶら

桑原裕子

公共劇場は、僕たちが楽しく

遊んでいるように見えないといけない。

井上 桂

12

INFORMATION

PLAT主催公演情報

14

FOYER

アートによる魅力発信事業

豊橋アーティスト・イン・レジデンス

「ダンス・レジデンス2019」

レジデント・アーティストが決定しました。

15

SUPPORT

TICKET CENTER

裏表紙

満島ひかり「お気に召すまま」

PLAT CALENDAR

表紙／十代目 松本幸四郎
裏表紙／満島ひかり「お気に召すまま」
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限公司STAFF
令和1年6月発行 38号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2019年7月-8月

vol. 38



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

- 3 [水] プラットワンコインコンサート鈴木研吾&板垣千香子『サクソフォンで紡ぐ世界旅行』◎PLATアートスペース
- 6 [土] 第53回東三民踊まつり◎PLAT主ホール
- 7 [日] 世界最速ジブシー・プラス『ファンファーレ・チョコカーア』◎PLAT主ホール
- 7 [日] くれっしえんと発表会◎PLATアートスペース
- 9 [火]-11 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第273回例会 劇団前進座『裏長屋騒動記』◎PLAT主ホール
- 12 [金] 豊橋市中小企業人材育成支援研修「経営者特別講座」◎PLATアートスペース
- 13 [土] 『しゃべれども しゃべれども』映画上映◎PLATアートスペース
- 15 [月・祝] 第6回 城パレエスタジオ発表会◎PLAT主ホール
- 15 [月・祝] 日本消化器病学会東海支部 第113回市民公開講座
「しっておこう おなかの病気～負担の少ない消化器治療～」◎PLATアートスペース
- 18 [木] 野村万作・野村萬斎狂言公演2019◎PLAT主ホール
- 23 [火]-26 [金] 第72回 中部日本高等学校演劇大会 愛知県大会東三河地区の部◎PLAT主ホール
- 27 [土] 松竹大歌舞伎◎PLAT主ホール

7

July

PLAT
CALENDAR

8

August

- 4 [日] ザ・ヤングアメリカンズジャパンツアー 2019夏 IN 豊橋◎PLAT主ホール・アートスペース
- 5 [月] 立川志の輔 独演会◎PLAT主ホール
- 8 [木]-9 [金] プラット親子わくわくプログラム2019 KAKUTAのとびだす童話『ねこはしる』◎PLATアートスペース
- 12 [月・振] プラットワンコインコンサート松本純奈『オーボエの魅力と可能性』◎PLATアートスペース
- 14 [水] 日韓合同 パレエコンサート◎PLAT主ホール
- 16 [金] 桜丘高校和太鼓部 自主公演「桜花太鼓」◎PLAT主ホール
- 18 [日] 豊橋南高校音楽部OB合唱団うたくらぶ 合唱演奏会「Heartful Concert 34」◎PLATアートスペース
- 20 [火] 豊橋市国際交流協会「コロナえりか 講演会・ミニコンサート」◎PLATアートスペース
- 22 [木]-25 [日] お気に召すまま◎PLAT主ホール
- 22 [木] CBDC PARTY 2019◎PLATアートスペース
- 24 [土] 豊橋出身のオペラ歌手 峯島望美のひとり歌芝居「シンデレラ☆」◎PLATアートスペース
- 27 [火] 第18回 小中学生による芸能フェスティバル◎PLAT主ホール・アートスペース

PLAT NEWS



「松竹大歌舞伎」

松本幸四郎改め二代目松本白 鷲襲名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎襲名披露

7月27日[土]12:30開演／17:00開演

出演＝松本白鷲、松本幸四郎、市川猿之助、市川高麗蔵、大谷廣太郎、松本錦吾ほか
会場＝PLAT主ホール

製作発表コメントより

白鷲——公文協中央コースの巡業はとても皆さまに楽しんでいただきまして、各地で高麗屋の親子の襲名公演をご覧いただきました。今回の東コースも場所によっては一回限りのお目見えでございますので、全身全霊を込めて、一期一会の舞台を勤めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

幸四郎——父と共に歩むはじめの一歩を多くの方にご覧いただきたいです。また、巡業公演は一日一日の公演でご当地の皆様にご覧いただき興味を持っていただくという重責を担っていると捉えております。

今回の演目『引窓』はとても大好きな演目で、曾祖父である初代吉右衛門が演じた役でもあり、襲名狂言として演らせていただくのは大変ありがたく、父の濡髪(長五郎)、そして自分の与兵衛と親子で演らせていただくことにも、とても幸せを感じております。

また、『かさね』は猿之助さんと勤めさせていただきます。彼との『かさね』がコンビと言われるように目指して頑張ります。とても名曲ですし、与右衛門の冷たさが色気に繋がるような色悪を演じられればと思います。

中島——新・幸四郎さんを襲名されて1年半が経ちますが、心境の変化などはありましたか。

幸四郎——襲名披露興行は歌舞伎座を始め、多くの先輩方に受けていただいて、色々な方に観ていただきました。本当に有難く、温かい時間ばかりで、夢が現実になったような時間でした。そこでお力を頂いて、さあこれから何をやっていくんだろうという事が大事なのかなと改めて感じています。

中島——白鷲さんが『引窓』の濡髪を演じられたのは、幸四郎さんと二人で演じられるということがあってでしょうか。

白鷲——そうです。『引窓』は、お芝居が一杯詰まっております。歌舞伎劇としてももちろん面白いですが、歌舞伎以外のお芝居、演劇の中でも傑作だと思っています。

中島——幸四郎さんは、この演目は初めてですか。

幸四郎——幸四郎を襲名してからは初めて演らせていただく事になり、本当にドラマチックで、大好きなお芝居で、大好きな役ですが、それだけとても難役だと思います。このドラマチックな役を自分自身がなりきって演じるという事を目標に演りたいと思います。

中島——『かさね』の踊りは大変長い時間になります。

幸四郎——お芝居色の強く、ずっと踊っているのではないですが、最後のかさねの霊に引き戻されるところが、時間として3分くらいでしょうか。これは全ての体力を使い果たしてしまうくらいの動きで、本当に苦しいですね。1時間ずっと踊り続ける事もありますが、僅か何分の踊りでも息が上がるという事もあります。

中島——御園座でも襲名興行がございましたが、名古屋や東三河のお客様の反応はいかがですか。

幸四郎——ドラマを観ていただいていると強く感じますね。返ってくる反応が他の地域から比べると静かかもし

全身全霊を込めて、 一期一会の舞台を勤めてまいります。

松本幸四郎改め

二代目 松本白 鷲

市川染五郎改め

十代目 松本幸四郎

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT シニアプロデューサー



INTERVIEW:1

松本幸四郎[まつもと・こうしろう]／昭和48年1月8日生まれ。松本白鷲の長男。54年3月歌舞伎座『侠客春雨傘』で三代目松本金太郎を名のり初舞台。56年10・11月歌舞伎座『忠臣蔵』七段目の大星力弥ほかで七代目市川染五郎を襲名。平成6年4月名題昇進。30年1・2月歌舞伎座『勅進帳』の武蔵坊弁慶ほかで十代目松本幸四郎を襲名。

松本白鷲[まつもと・はくおう]／昭和17年8月19日生まれ。初代松本白鷲の長男。21年5月東京劇場『助六』の外部売伴で二代目松本金太郎を名のり初舞台。24年9月東京劇場『勅進帳』の太刀持ほかで六代目市川染五郎を襲名。56年10・11月歌舞伎座『勅進帳』の弁慶ほかで九代目松本幸四郎を襲名。平成30年1・2月歌舞伎座『寺子屋』の松王丸ほかで二代目松本白鷲を襲名。

れません。もちろんその分じっくり観ていただいていると強く感じます。ドラマがある今回の演目は、喜んでいただけたと思います。

中島——今後、白鷲さんが幸四郎さんに期待することは。白鷲——自分が名前を譲り、染五郎から移るとき、芸が溢れて来ていると僕は見たので、それは嬉しい反面、もったいないという感じがしました。幸四郎という器に変えたら、またそこに芸を入れられる。当人はそれを意識しているのか、無意識か分かりませんが、そういう風になってきています。それは非常に嬉しいと思いますし、今までも染五郎の歌舞伎を作ってきて、今度は幸四郎の歌舞伎を作っている最中ですが、ゆくゆくは、幸四郎「が」、歌舞伎を作ってほしい。「の」でなく「が」。という夢を、抱いております。

中島——幸四郎さんは新しいものにも挑戦しておられますけれど、その意気込みを。

幸四郎——新しいものは何だろう、とか、今は何が受け入れられているのだろうと考えると、答えが出てこないもので、自分が「こういうことがあったら面白いだろうな」ということを形にしていくことと思っています。それが実際に、存在すれば作る手間はなくて済むのですが、無いのであれば作るしかない、自分が見たいものを形にしていくことが、歌舞伎の可能性に広がればいいと思います。

世界中の方々に歌舞伎を観ていただきたい、知っていただきたいという思いがあります。であるなら、日本の歌舞伎専用の劇場にどうやって沢山来ていただくか、海外で歌舞伎を上演するのであれば、世界中で歌舞伎がやれる世の中になって欲しいという思いで海外に行っています。歌舞伎が、どの世界でも、どの国でも演出の選択肢の一つとしてある力を持っていると信じています。

中島——東三河は芸流芸能が盛んな地域ですが、そんな豊橋の人に向けて、何か一言頂けますか。

幸四郎——知らない事・出来ない事が出来るようになるのは、楽しい事なので、それを一生持っていただけたら良いかと思っています。それを仕事としてやる方もいらっしゃるでしょうし、そうならないにしても、何かを学ぶ・習うというのは、いつの年齢になっても必要な事ではないでしょうか。

中島——どうもありがとうございます。

野村万作・野村萬齋 狂言公演2019

鮎を焼く煙の向こうに垣間見える
男達の不思議な物語

7月18日[木]14:00開演／18:30開演

出演＝野村万作、野村萬齋、石田幸雄、深田博治、高野和憲ほか

上演演目＝新作狂言「鮎」、狂言「鐘の音」ほか

会場＝PLAT 主ホール

狂言「鮎」の味わい深さ
河合祥一郎 東京大学教授



河合祥一郎[かわいしょういちろう]／日本シェイクスピア協会会長。東京大学教授。読売演劇大賞選考委員、彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会委員長などを務める。著書に『シェイクスピア—人生劇場の達人』『謎解き「ハムレット」』『シェイクスピアの正体』『ハムレットは太っていた!』(サントリー学芸賞受賞)ほか。自ら演出を手掛けるKawai Projectで第11回小田島雄志・翻訳戯曲賞特別賞受賞。角川文庫から新訳シェイクスピア刊行中。萬齋師のために『国盗人』、狂言『根日女』を執筆。

池澤夏樹氏の短編小説「鮎」をもとに作られた本作品のおもしろさは、狂言ならではのユーモラスな手法によって六尾の鮎が——串刺しになって焼かれるところまで——楽しく表現されるコミカル性のみならず、池澤文学のなかにある「自然と人間との対峙」というテーマに関わる文明批評のシリアス性も籠められている点にあると言える。

清流にしか棲まない鮎は清く穢れない存在であり、食べればおいしく味わい深い。ところが、主人公の小吉が抱える欲望は醜く、ある種の「穢れ」であり、人間は「食えない」存在だ。

焼かれれば香ばしい匂いをあげる鮎は、まさに自然の恵みであり、愛すべき存在として「笑い」を惹き起こすが、小吉の夢は笑えないという対比があるのだ。

原作は「邯鄲」の夢枕や芥川龍之介の「杜子春」のような夢オチであり、本作は原作をかなり忠実に狂言化した作品になっているものの、萬齋師による脚色ではエンディングが池澤氏の原作と少々異なっている。

なぜ異なっているのか。それを理解するには、これまで萬齋師自身が他作品で表現してきた文明批評的アプローチがヒントになる。これまで萬齋師は、「自然と人間との対峙」という池澤氏と共通するテーマを独自に探究してきたのである。その最大の成功例は、2010年に初演し、2013年のニューヨーク、ソウル公演を経て、2014年ルーマニア・シビウ演劇祭参加後パリ及び日本各地で上演した萬齋師演出・主演の『マクベス』であろう。この『マクベス』は、マクベスとマクベス夫人以外の登場人物をすべて三人の魔女が演じることによって、何もかもが魔女に見せられた夢だったとわかる構造になっている。マクベスが現実と思ったことはすべて幻だったのだ——小吉の人生が夢であったように。

しかも、マクベスに幻を見させた魔女という存在がゴミから生まれてくるという設定(初演は家庭ゴミだが、再

演以降は核廃棄物)にしたところが、萬齋演出の秀逸なところだ。環境破壊をした人間に対して自然が反撃をするという解釈である。これは、萬齋師によれば、狂言「茸(くさびら)」において、茸が多数登場して人間に襲いかかる(自然が人間に逆襲する)という、狂言に先例のある発想に基づいたものだ。人間が自然をコントロールしようとして逆にひどい目に遭う「蟹山伏」なども同じ例である。

萬齋マクベスにおいては、穢れた夢に生きたマクベスが魔女(自然の逆襲)によって倒されると、人間は自然に還り、そこからきれいな花が咲く。そのとき魔女は言うのだ——「きれいは穢い、穢いはきれい」と。

として、この対比を明確にするために、萬齋師演じるマクベスは最後まで醜く、見苦しく、あがきつつける。「バーナムの森がダンシネーンの丘に向かってくるまではマクベスは倒れない」「女から生まれた男にマクベスは倒されない」といった予言がことごとく二枚舌を用いたものとわかってマクベスは希望を失うものの、それでも最後まであがきつつけ、萬齋マクベスは原作にはない次の台詞を口にする——「俺は夢をあきらめないぞ」

そうやってあがきながら死んでいくマクベスの姿は、大きな自然に対する人間の小ささ、儂さを強調することになる。

狂言「鮎」の結末において、小吉が夢から覚めても、まだ欲を捨てるまいとあがく(原作にはない)台詞を口にする理由は、以上の経緯を踏まえれば納得できよう。

伝統的な狂言においては人間肯定的な面が強いが、ハムレット、リチャード三世(『国盗人』悪三郎)、マクベスと、シェイクスピアの悩める主人公を演じてきた萬齋師ならではの厳しい人間批評がここにはあるように思われる。シェイクスピアの深さを秘めた「鮎」をじっくり味わって頂きたい。



野村萬齋[のむら・まんさい]／1966年生。祖父・故六世野村万歳及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ごさる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦-山月記-名人伝』『国盗人』『子午線の祀り』など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞・千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開会式・閉会式のチーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター。



8月5日[月]18:30 開演

出演＝立川志の輔

会場＝PLAT主ホール

劇空間を見事にとらえ

古典落語を現代と呼吸する「噺」へと昇華し続ける

立川志の輔 独演会

撮影：小島崇義

全部語り切ってやろうって思ったのです。一言で言えば、馬鹿です(笑)。

中島—— 古典名作を知る、触れることは大事ですね。

志の輔—— ほんとに大事だし、古典落語も出来上がった当時は、新作落語でした。そして、それを古い話としてではなく、現代にスリリングに伝えることが私たちの仕事の一つです。

中島—— 一段ずつ見ていると、繋がらなかったですね。

志の輔—— その通りです。舞台やドラマなどの『忠臣蔵』にしても、七段目の一力茶屋だけとか四段目の切腹だけとか、ドラマチックな部分だけ上演してきたおかげで、全体が分からなくなってきている。とにかく、全部わかっていただいて満足していただく、これが『志の輔らくご』の基本ですから(笑)。

中島—— 今回、初めて夏に豊橋で独演会開催です。何か特別な噺はありますか。

志の輔—— 夏といえば幽霊ですね。ですから、豊橋で初めての怪談話ができるんじゃないかとワクワクしています。落語の怪談話には、馬鹿馬鹿しい幽霊から本当に身の毛がよだつほど恐ろしい話まで、物凄い幅があります。何を選びましょうか、自分でも楽しみです。

PLATの劇場スタッフは、いいものを創ろう、市民に楽しんでもらおうという意識が高く、豊橋のお客様もまたそれをありがたく思っている雰囲気を感じられ、舞台上の私も気持ちがよく、毎年出かけて行くのが本当に楽しみです。

中島—— がんばります!うれしいお言葉です。暑い夏ですがお待ちしております。

立川志の輔[たてかわしすけ]

昭和29年(1954年)、富山県射水市生まれ。明治大学在学中は落語研究会に所属。卒業後、劇団、広告代理店勤務を経て、昭和59年に立川談志門下に入門。平成2年5月、立川流真打に昇進。現在に至る。昭和63年と平成元年には、につかん飛切落語会若手落語家奨励賞を2年連続受賞。平成2年に文化庁芸術祭大賞、平成19年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、平成27年第66回日本放送協会放送文化賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を持つ。毎年1月、渋谷パルコ劇場での1ヶ月公演や横浜にぎわい座、富山市のてるてる亭などでの定期公演をはじめとした全国各地での落語会その他、「ガッテン!」(NHK総合テレビ)をはじめパーソナリティーとしても活躍中。著書は「21世紀のあくび指南」、「志の輔らくごのころ」、「満月のわらい」など多数。

昼夜興行の『中村仲蔵』昼公演終演後に、肩で息をなさっているほどお疲れの中、立川志の輔師匠に客席でお話を伺いました。師匠のライフワークでもある『中村仲蔵』『牡丹灯籠』のお話、そして豊橋で初めて夏の開催となります独演会についてもお話を伺いました。

中島—— てるてる亭の小さな舞台に、浮世絵の映像を使つての『仮名手本忠臣蔵』前編の説明でしたね、お疲れ様です。『中村仲蔵』は新作落語ということになりますか。

志の輔—— いえ、違いますよ、『仮名手本忠臣蔵』は1748年に出来た人形浄瑠璃の台本ですが、『中村仲蔵』は三代目中村仲蔵が書いた『手前味噌』と言う本の中にある初代仲蔵の逸話を、先人の落語家の誰かが落語の形にして、それを彦六師匠や、円生師匠が固められたんだと思います。だから…、古典落語ですよ。ただ、『仮名手本忠臣蔵』の全部を落語の前に浮世絵とともに説明をしようとする落語家は、私しかいないでしょうね(笑)。

中島—— きっかけはなんだったんですか。

志の輔—— きっかけは『中村仲蔵』についていえば、『仮名手本忠臣蔵』と実際に起こった事件『赤穂事件』とは別のものだど気がついたことと、このお芝居の『五段目』だけを聞いてもわかりにくいので、先に全体の説明をしておけば、落語『中村仲蔵』で重要なポイントになる『五段目』がすんなりと受け入れやすくなるんじゃないかと思ったからです。

『牡丹灯籠』も、ある時、パルコ劇場の1ヶ月公演が終わって、もう放心状態で何にもしたくないと思って過ごしていたとき、ふと本棚を見たら、昔に買った円朝全集が目に残ったんです。一度も開いたことがなかったのに、それを開くと、第一巻の第一話が怪談『牡丹灯籠』だったのです。

あの怪談話「カランコロン、カランコロン…」だ、と思って読んでいたら、読んで読んで自分の知っている人の名前が出てこなくて「えっ?これは本当に牡丹灯籠か?」と思いながら全部読み切ったら、知っているのは一部分だったんだと分かったのです。

江戸時代の圓朝が30時間かけて語ったといわれているこの物語を、現代人に合わせて(笑)2時間30分で

2019年5月5日(日)富山てるてる亭にて

『中村仲蔵』

「聞く気とやる気」交わる「場」つくりから始まる「志の輔らくご」

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT ミニライブデザイナー

豊橋は路面電車が通っている素敵な街です。

愛知県は第二の故郷と思っています。

今は何も考えず「タッチストーン」を演じます。温水洋一

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT シニアプロデューサー

中島—— 熊林弘高さん 演出、シェイクスピア作『お気に召すまま』について、お話を伺わせてください。熊林さんの演出舞台を何かご覧になったことはおありですか。

温水—— それが、まだないんですよ。ましてや、シェイクスピア作品は、僕には全く縁の無いものだと思っていたので…。もちろん、翻訳劇は『管理人』をはじめとして、2、3作品は、以前にも出演したことはありましたが、あまり自分にひっかかりがなくて。

中島—— 『お気に召すまま』で演じる役を教えてくださいますか。

温水—— タッチストーンです。

中島—— 温水さんにピッタリですね。重要な役どころだし、楽しみです。

温水—— でも、僕は、『リア王』とかも映画でしか観たことないですし、『ハムレット』、『オセロ』も観たことがないんです。四大悲劇作品はなにか、みたいなその程度の知識で…。今回はコメディですが、シェイクスピアは様々なジャンルの作品を書いていますよね。でも映画でしか観てないですし、舞台は一度も観たことがなくて。演じるのも初めてなんです。

中島—— でも、かえってそういう人の方がいいんじゃないですか。先入観が全くなくて。

温水—— いや、ホントに、先入観が無いって言うか、今更シェイクスピアを読みあさってもしょうがないと思って。舞台の仕事があったせいで、ワークショップにも参加できなかったんですよ。とはいえ、全く何も無いところから始まるのも…。

このお話をいただいたとき、演出の熊林弘高さんから、一度会って話したいと連絡をいただいたので、お会いしました。引き受けるか迷っていたんです。出演者が錚々たるメンバーで、とても面白そうだな、とは思っていました。若手からベテランまで。小林勝也さんも初めてだし、それは興味がありました。

熊林さんのお話ぶりが一生懸命で、とても熱い方だなと思いました。彼は今、勉強しているとおっしゃっています。まだ今回の台本は頂いてないけど、別の翻訳の『お気に召すまま』の舞台を観たりしたから、今は何も考えなくてもいいかな、と。それでタッチストーンのおファーを受けようと決めました。

中島—— 先ほど、出演者にも魅かれたとおっしゃいましたが、今まで共演なさった方はいらっしゃいますか。

温水—— テレビなどでご一緒した中嶋朋子さんはかなり前ですね。坂口健太郎さんとも同じ番組に出演したことはありますが、同じ現場はないんです。彼は若いで



8月22日[木]18:30開演・23日[金]13:00開演

24日[土]13:00開演・25日[日]13:00開演

作=W.シェイクスピア

演出=熊林弘高

出演=満島ひかり、坂口健太郎、満島真之介、中村蒼、中嶋朋子ほか

会場=PLAT主ホール

シェイクスピア中期を代表する喜劇として

世界各国で愛される名作

「お気に召すまま」

すが、ドラマの主演もやっていますしね。先日、ポスター撮影の時に初めて挨拶しました。他は初めての方ばかりなんです。

たとえば、翻訳家の小田島恒志さんから「シェイクスピアの台詞が長くて、説明台詞が多いのは何で、と思うかもしれないけど、そういうものだと思って台詞覚えてね。」と言われちゃって。「わかりました」と。今回、早船歌江子さんの台本がどんな感じになるかわからないけど、引き受けた以上は一生懸命やります。

中島—— 芸歴も長いですが、演劇を始めるきっかけはどういったことから。

温水—— 僕は宮崎県都城で高校演劇をやっていたんですよ。1980年は高校1年生で「オレたちひょうきん族」が始まって、お笑いブームでしたから、友達同士で漫才やったり、コントやったりしていたんです。目立ちたがりではなかったんですが、2年生の時に美術部のちよつとかわいい子に「演劇に興味ない？演劇部は男子が少なくても苦勞しているから、一度のどきに行ってみたら？」と誘われたんです。チョット悩みましたね。進学校だったし、受験前だから。でも、泉鏡花『夜叉ヶ池』を30分程度の短編に書き下ろした作品で、「村人A」とかの端役で出演。裏方の道具造りもすごく楽しかった。おまけにその舞台で、衣裳が道具にひっかかり破れて、笑いを取ってしまうというハプニングが。文化祭が終わった後に、「面白かったなあ〜！」とみんなに言われて、益々、芝居が好きになって。丁度その頃『ガラスの仮面』のマンガが流行っていて、それを読みなよと渡され、益々はまっちゃって。

僕の演劇の入り口なんてそんなもんです。でも、ものすごく僕にはインパクトがありました。それからですね。『真夏の夜の夢』とか映画で見たのは。「ロバになりたい」とか思ったし。でも、ほんとに恥ずかしがり屋だったんですけど、目立ちたがりの部分もあったのかもしれないですね。学校の先生のものまねを家で練習したりして、それがウケるうちに、徐々に人前で表現する事の「快感」みたいなことを感じていたのかな。

中島—— 最後になりましたが、プラットでは4回公演で開催いたします。お友達や、ファンの方に向けて一言お願いできますか。

温水—— 豊橋は何度か仕事で行ったことはあるんですが、舞台は初めてです。仕事で来た時に路面電車が通っている素敵な街だなあと思いました。お客様の反応もその土地で違うでしょうし、名古屋ともまた違った反応なのではないかと楽しみではあります。何より、4回もできるなんて、贅沢ですよ。豊橋の皆さんにとっても、4日間のどこかで来られるでしょうから。

大学が愛知県の知多半島の福祉大学で、今でも東海地方には友達がいるので大勢呼びたいと思います。名古屋はレギュラー番組を持っていたので1年半通った時期もあって縁の深いところ。親戚もいますし、愛知県は第二の故郷と思っていますから、ぜひ観に来ていただきたいです。昼公演も多いので、豊橋で過ごす時間が長い分、存分に楽しみたいです。

中島—— 第二の故郷の都市、豊橋でお待ちしております。お忙しい中ありがとうございます。

温水洋一 [ぬくみず・よういち]
／1964年6月19日生まれ。宮崎県出身。1988年から1994年まで劇団「大人計画」に在籍し、劇団の本公演、また竹中直人の会や明石家さんま主演のカンパニー公演、三谷幸喜作品など数々の舞台に出演。2017年には紀伊國屋演劇賞・個人賞を受賞。2019年10月から博多座・明治座にて舞台『ふるあめりに袖はぬらさじ』に出演する。2020年以降も数本の舞台出演を控えている。映画やテレビドラマでも唯一無二の個性派の俳優として広く知られ、バラエティ番組でも独特のキャラクターで人気を博す。近年の主な出演作に、【舞台】『命売ります』(18)、『管理人』(17)、『七人ぐらゐの兵士』(15)、【映画】『終わった人』(18)、『恋と嘘』(17)、【テレビドラマ】『ミラー・ツインス』(CX)、『インハンド』(TBS)などがある。『ぶらぶらサタデー タカトシ温水の路線バスの旅』(CX)にレギュラー出演中。

桑原——私が芸術文化アドバイザーに就任して、先輩の芸術監督の方々にお話を伺ってみようという企画の、四回目になります。これまでお話を伺った方は、劇作家、演出家、俳優といった方でしたが、井上桂さんは、という意味では毛色が異なっていますが、その経緯からお聞かせいただけますでしょうか。

井上——芸術監督にしては珍しい、制作畑出身という点ですね。大学生の時、偶然芝居を手伝い始めると、裏方さんたちが恰好良かった。すっかり憧れてしまって、この人たちのようになりたいと現場に入り浸っているうちに、大学卒業後はスタッフ会社に入ってしまった。だんだん仕事を覚えていくうちに、色々な現場の事情が見えてきました。そこでどういうわけか、もっと前の段階から手伝いたいと思ったのが制作を選んだきっかけです。その後、1996年から新国立劇場で働くことになり、その後、新国立劇場演劇研修所の事務局もやりましたが、その時から今も繋げている制作として心掛けるのは、現場での誰もが楽しく働ける環境づくりです。

桑原——そのような意識は芸術監督や劇場同士でもありますか。

井上——演出家などのご出身の芸術監督は、前任の人や他所と違う方向性を目指すものですし、それが芸術的な成果を産み出す原点だと思います。一方、私は制作者のせいからこの演劇というものを世の中に広げたいというふうなことを最初に考えてしまいます。そして予算、マーケティング、宣伝…。劇場のラインナップとして、自主製作だけでなく、他館や制作会社が企画した有名人が出演する作品を招へいすることに重きを置くことも

できますが、そればかりやっているとチケットは売れ、劇場は賑やかになるけど、「それだけではいけない」とも思います。そんなジレンマを抱えながら、お客さんが楽しめることを第一にラインナップを考えるようにしています。

桑原——水戸芸術館の強みはどのようなところですか。

井上——街の人たちは好奇心旺盛で、反応がとても良いところがあります。前の芸術監督の高橋知伽江さんが「地元題材を取り上げる」と始めた恩田陸先生の原作の音楽劇『夜のピクニック』は、地域の誇りを思い出させてくれたと大きな反響がありました。昨年も詩森ろばさんに『海辺の鉄道の話』という、日本のローカル線で驚異的な実績を挙げ続けている水戸市の隣町にある「ひたかなか海浜鉄道」の物語を書いてもらい、水戸だけの上演にも関わらず、その成果は全国的にも紹介されました。

桑原——水戸芸術館が独特なのは、劇団があることですが、その観点はどこから生まれたのですか。

井上——開館時から存在しています。様々な試行錯誤を続けながら、現在に至っています。今も地域と大切な大きなパイプになっています。これまた高橋知伽江さんが始められたのですが、それまで劇団員が小学校の体育館で上演していた企画を、水戸芸術館のACM劇場で水戸市内の全小学4年生(約2,300人)が、観劇を体験できる学校行事にしてくれました。ほぼ全員が、劇場での初めての観劇体験ですから、このお客様全員を楽しませようと、スタッフキャスト全員、必死に取り組んでいます。

公共劇場は、市民生活にお役に立っていると認められなければいけないと思っています。子どもたちがお芝

井上桂 桑原裕子

水戸芸術館演劇部門芸術監督 穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザー

公共劇場は、僕たちが楽しく遊んでいるように見えないといけない。

居で喜んでくれると、大人も「良いことしたな」と思ってもらえる。すると、子ども、ご家族、学校の人たちが私たちに丸ごと認めてくださり、「また来年も」と継続していく可能性が高まると思います。

桑原——小学校中学年からさらに上の世代の子たちにはどうアプローチしようと思っておられますか。

井上——小学4年生から中学3年生までが、観るだけではなく参加できる子どもミュージカルスクールをやっています。約10ヶ月間レッスンして、3月末にACM劇場で発表する。毎年50名以上のメンバーが一所懸命参加しています。

まず観るきっかけを作り、大人になったときに、余暇として劇場に行くということが選択肢の中に入っているようにしたい。というのも、10年ほど前のデータですが、年に1回でも映画館を含む劇場に行った経験のある人調査をしたら、40%と半分もない。これは、劇場に来る人のパイ自体大きくしないと、立ち行かないと思いました。水戸芸術館のお話をいただいたときに、パイを大きくする仕事を自分ならではの形で挑戦したいというのが一番大きな点でした。

桑原——今度、手掛けられる、宮崎駿さん原作の『最貧前線』は、どういう経緯で実施することになったのですか。

井上——原作は、ある模型雑誌に宮崎駿さんが不定期連載していた「宮崎駿の雑想ノート」の中のある一編です。一度ラジオドラマになったのですが、時間軸をもっと長くして描いたら面白いかなと、当時自分で勝手に書いたものを、今回演出をしていただく一色隆司さんにたまたま読んでもらったら「芝居になる」と。そこでその

台本と企画書をジブリに送ったら、鈴木プロデューサーから、「宮崎が良いと言っています」と連絡があって、上演の許可を頂戴した次第です。

桑原——井上さんは、舞台の裏方の仕事を解説するイラスト本も自分で作るなど、遊び心をいろんな方面に分かりやすく広げてらっしゃいますよね。それはご自身のモットーですか。

井上——先にも言いましたが、芝居のお客さんが増えて欲しいと思っています。「世界のCM傑作集」というDVDの中で、夕闇に消防車がパパーパパーって走っているものがあり、何の宣伝かと思ったら「運転するのが楽しい車・BMW」というテロップで終わるものがあります。見ている子どもに、大人になったらBMWに乗ろうと言っているのです。びっくりしました。翻って僕ら演劇人は、世間にそういう伝え方をしていないなと思い、イラストを始めたのです。

桑原——私が北九州芸術劇場プロデュースで『彼の地』という作品を創ったときに、東京のお客さんも北九州のことを知らないだろうと、『彼の地』マップを作ったんです。ここにはこんな食べ物がある、ここに行ったらこうだった、ああだったと紹介しました。それを楽しみにして、現地を見て回った方もいらして。自分がお客さんならこういうのがあったら良いなと思って書いたにすぎないんですが、そういうことから広がっていくことはありますよね。

井上——芸術って画数の多い漢字じゃないですか。かといってアートって言い方も「実際自分とはそんなに格好よくない」。市民の皆さんに参加してもらうには、やはり僕たちが遊びどころいっぱい、楽しそうに一所懸命やっているように見えないといけないなと思っています。芸術至上主義になると、良いことやっているから見てくださいとなりがちです。

桑原——水戸芸術館はすてきなカフェやミュージアムショップもあり、一日そこに行けば楽しめますね。

井上——地域の人にとって、いつでも何か刺激の受けられる週末のお助けスポットに見えたらよいと思っています。ここには、現代美術もあるレクラシック音楽もあるし、何かしらいつもやっている。だから、やってきた人の滞空時間が長くなる可能性があるのも、自分がいるときは色々な形で「芸術」の敷居を低くして、「イメージと違って柔らかいものですよ」ということを伝えたいです。

桑原——井上さんの制作的な計算と、遊び心とのバランスがとても面白いですね。ありがとうございました。

井上桂[いのうえ・かつら]／2017年、水戸芸術館ACM劇場芸術監督に就任。大学生時代より夢の遊眠社、地人会、俳優座劇場舞台美術部などで様々な形で演劇に関わる。大学卒業後、舞台監督会社、演劇制作会社などを経て、新国立劇場開場時から演劇部門の制作職、演劇研修所など歴任。日本芸術文化振興会プログラム・オフィサーなどを経て現在に至る。本年上演される『最貧前線』(宮崎駿の雑想ノートより)では、脚本を担当した。舞台に関するイラストも得意。



PURA PURA
 バラコの
 寄り道
 ぷらぷら

春風亭小朝 独演会



「お気に召すまま」



満島ひかり



坂口健太郎

「最貧前線」



内野聖陽

庭劇団ベニノ「笑顔の砦」



6/22 [土] 13:30 開演
「春風亭小朝 独演会」
 ドラマ出演や音楽界とのコラボ、プロデュースなど幅広い分野でその才気を発揮している小朝師匠が今年もプラットに登場! ●出演＝春風亭小朝 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] 一般3,500円、ユース(24歳以下)2,500円

好評発売中

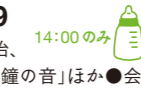
7/7 [日] 17:00 開演
世界最速ジブシー・プラス
「ファンファーレ・チョコリア」
 現在のジブシー音楽を代表し、絶大な人気を誇る、世界最速最強のジブシー・プラス・バンドがPLATに登場!映画『アンダーグラウンド』(1995年カンヌ映画祭グランプリ)や『黒猫・白猫』で注目された、一度聴いたら忘れられない強烈な個性～疾走感・壮快感に満ちている彼らの音楽をお届けいたします。 ●出演＝ファンファーレ・チョコリア ●ゲストダンサー＝Nourah(ノラ) ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] 一般4,000円、ユース(24歳以下)2,000円ほか

好評発売中



7/18 [木] 14:00 開演 / 18:30 開演
野村万作・野村萬斎 狂言公演2019
 ●出演＝野村万作、野村萬斎、石田幸雄、深田博治、高野和憲ほか ●上演演目＝新作狂言「鮎」、狂言「鐘の音」ほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席7,000円、A席6,000円、B席4,000円ほか。 [特別協賛: サラグループ]

好評発売中



7/27 [土] 12:30 開演 / 17:00 開演
2019年度(公社)全国公立文化施設協会 主催 東コース
「松竹大歌舞伎」
 松本幸四郎改め二代目松本白 鷗襲名披露
 市川染五郎改め十代目松本幸四郎襲名披露
 ●出演＝松本白鷗、松本幸四郎、市川猿之助ほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席10,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか ●前売予定枚数終了＝当日券については7月21日以降にお問合わせください。

好評発売中



8/5 [月] 18:30 開演
立川志の輔独演会
 ●出演＝立川志の輔 ●会場＝PLAT主ホール ●前売予定枚数終了＝当日券については7月中旬以降にお問合わせください。

8/8 [木] 15:00 開演・**9 [金]** 12:00 開演 / 16:00 開演
プラット親子わくわくプログラム2019
KAKUTAのとびだす童話
「ねこはしる」
 のろまでジジな子猫とひとりぼっちの魚の成長の物語。いのちまたたく感動の物語を、こぼにのせ、美しい音楽にのせ、演劇のあをびてころいっばいお届けします。 ●作＝工藤直子 ●構成・脚色・演出＝桑原裕子 ●音楽＝扇谷研人 ●出演＝成清正紀、添野豪ほか ●うた＝花れん ●会場＝PLATアールスペース ●料金＝[日時指定・全席自由・整理番号付] 大人3,000円、ユース(24歳以下)1,500円、こども(高校生以下)＝500円 [特別協賛: サラグループ]

好評発売中



託児サービス対象公演

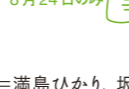
要予約。生後6ヶ月以上。お一人様 ¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演

マイセレクト 4 2019

8/22 [木] 18:30 開演・**23 [金]** 13:00 開演
8/24 [土] 13:00 開演・**25 [日]** 13:00 開演
「お気に召すまま」
 ●作＝W.シェイクスピア ●演出＝熊林弘高 ●出演＝満島ひかり、坂口健太郎、満島真之介、中村蒼、中嶋朋子ほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席9,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか ●前売予定枚数終了＝当日券については8月12日以降にお問合わせください。

8月24日のみ



9/6 [金] 18:30 開演
9/7 [土] 13:00 開演 / 18:00 開演
9/8 [日] 13:00 開演
「最貧前線」
 宮崎駿オリジナル作品の国内初の舞台化。小さな漁船に乗り込んだ男たちによる太平洋戦争の歴史秘話を、次の世代に語り継ぐべき物語として描きます。 ●会員先行＝6月8日(土) ●一般発売＝6月22日(土) ●原作＝宮崎駿「宮崎駿の雑想ノート」より ●脚本＝井上桂 ●演出＝一色隆司 ●出演＝内野聖陽、風間俊介、溝端淳平 / ベンガルほか ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席9,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか ※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。 [特別協賛: サラグループ] [共同主催: メ〜テレ・メ〜テレ事業]

9月7日13:00のみ



9/23 [月・祝] 13:00 開演
「人形の家 Part2」
 イブセンの「人形の家」のその後を描いた、新進気鋭の劇作家ルーカス・ナスの斬新な新作を、「第26回読売演劇大賞」大賞に輝く栗山民也演出で本邦初演! ●会員先行＝6月29日(土) ●一般発売＝7月6日(土) ●作＝ルーカス・ナス ●翻訳＝常田景子 ●演出＝栗山民也 ●出演＝永作博美、山崎一、那須凜、梅沢昌代 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席6,500円、A席5,000円、B席3,000円ほか

9/28 [土]・9/29 [日] 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ
庭劇団ベニノ
「笑顔の砦」
 2008年岸田國士戯曲賞にノミネートされたタニノクロウの物語作品の原点が新たなキャストとともに生まれ変わる。 ●会員先行＝6月29日(土) ●一般発売＝7月6日(土) ●作・演出＝タニノクロウ ●出演＝井上和也、FOベレイラ宏一郎、緒方晋、坂井初音、たなべ勝也、野村真人、百元夏樹 ●会場＝PLATアールスペース ●料金＝[全席指定] 一般3,000円ほか

9月28日のみ



チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00] ●オンライン http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

レ・タンブル&ハルモニア・レニス 「甘美なるイタリア・バロック ～バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディへの道～」



プラットワンコインコンサート



板垣千香子(ピアノ)、鈴木研吾(サクソフォン)

KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」関連事業 「げきであそぶ」子ども向けワークショップ



10/3 [木] 19:00 開演
レ・タンブル&ハルモニア・レニス
「甘美なるイタリア・バロック
～バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディへの道～」
 17世紀イタリアの作曲家たちの熱い情熱が濃縮した想像力溢れる作品をお届けします。バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディ・ファン必聴のプログラムです。 ●会員先行＝7月13日(土) ●一般発売＝7月20日(土) ●出演＝レ・タンブル[川久保洋子(バロック・ヴァイオリン)、ミリアム・リニョル(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、ジュリアン・ヴォルフス(チェンバロ&オルガン)]、ハルモニア・レニス[水内謙一(リコーダー)、村上曉美(チェンバロ&オルガン)] ●会場＝PLATアールスペース ●料金＝[全席指定] 一般3,000円、ユース(24歳以下)1,500円ほか

2019 My Select 4

10/5 [土] 昼の部 13:30 開演 / 夜の部 18:00 開演
人形浄瑠璃 文楽
昼の部「生写朝顔話」
夜の部「ひらかを盛衰記」ほか
 文楽の人気演目「朝顔」、そして時代物の名作「ひらかな盛衰記」など多くの観客を魅了してきた演目をPLAT主ホールでぜひお楽しみください。 ●会員先行＝7月13日(土) ●一般発売＝7月20日(土) ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席4,500円、A席3,000円、昼・夜セット券 S席8,000円ほか

2019 My Select 4

10/6 [日] 16:00 開演
劇団四季 ファミリーミュージカル
「カモメに飛ぶことを教えた猫」
 猫とカモメのヒナとの温かい交流を描いた、劇団四季新作オリジナルミュージカル。ひん死の母カモメから卵をたくされた猫のゾルバが、彼女と交わした3つの約束を果たすため、仲間と力を合わせて奮闘する姿を描きます。 ●会員先行＝7月7日(日) ●一般発売＝7月13日(土) ●出演＝山下純輝 ●脚本・作詞＝劇団四季 企画開発室 ●作曲＝宮崎誠 ●振付＝萩原隆匡 ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席一般5,500円(小学生以下3,300円)、A席一般3,300円(小学生以下2,200円)

11/8 [金] 19:00 開演・**9 [土]** 13:00 開演
劇団スーパー・エキセントリック・シアター
創立40周年記念・第57回本公演
ミュージカル・アクション・コメディ
「ピースフルタウンへようこそ」
 三宅裕司、小倉久寛を中心に結成し、今年で創立40周年を迎える劇団SETがPLATに再び登場します! ●会員先行＝8月3日(土) ●一般発売＝8月17日(土) ●脚本＝吉高寿男 ●演出＝三宅裕司 ●出演＝三宅裕司、小倉久寛、劇団スーパー・エキセントリック・シアター ●会場＝PLAT主ホール ●料金＝[全席指定] S席8,000円、A席6,500円、B席5,000円ほか

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート
 「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。 ●会場＝PLATアールスペース ●料金＝[全席自由・整理番号付] 500円
7/3 [水] 11:30 開演
『サクソフォンで紡ぐ世界旅行』
 鈴木研吾(サクソフォン)、板垣千香子(ピアノ)
8/12 [月・休] 11:30 開演
『オーボエの魅力と可能性』
 松本純奈(オーボエ)

好評発売中

KAKUTAのとびだす童話「ねこはしる」関連事業
「げきであそぶ」子ども向けワークショップ
8/5 [月] 13:00-15:00
 工藤直子さんの童話「ねこはしる」をモチーフに、様々な創作ゲームや演技体験を通じて、自分でなにかを生み出す楽しさを存分に味わっていただきたいと思っています。 ●講師＝KAKUTA 劇団員 ●会場＝PLAT創造活動室B ●対象＝6歳～小学生 ●参加費＝500円 ●募集人数＝15名(先着順) ●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口に持参か FAX(0532-55-8192) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

ワークショップファシリテーター養成講座
2019 前期
 長期的・継続的な視点でワークショップの進行をする人材「ワークショップファシリテーター」を地域に育成する連続講座。前期では最終日の「ワークショップ縁日」に向けて、ワークショップをつくりながら進行について学んでいきます。 ●日時＝7/20 [土] ～ 9/1 [日] (全7回) ●講師＝すぎきこた、柏木陽、吉野さつき ●会場＝PLAT ほか ●対象＝18歳以上で、極力全日程参加できる方。演劇経験不問。 ●料金＝3,000円 ●定員＝20名(応募者多数の場合は選考) ●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口に持参か FAX(0532-55-8192) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み ●締切: 7月5日(金)

FOYER

アートによる魅力発信事業 豊橋アーティスト・イン・レジデンス

「ダンス・レジデンス2019」

レジデント・アーティストが決定しました。

穂の国とよはし芸術劇場では、国内外で活躍するアーティストに新しい作品創造のための稽古場と滞在場所を提供し、アーティストへの支援・育成をおこなうとともに、ワークショップ・試演会等を開催し、市民とアーティストの交流の機会を設け、舞踊や身体表現を身近に体験していただくプログラム「ダンス・レジデンス」を2017年より実施しています。3年目となる今年は、公募アーティスト3組を含む計5組が、レジデント・アーティストとしてプラットでダンスの創作活動に取り組みます。滞在期間中には、ワークショップや試演会などを随時企画してまいりますので、今年もどうぞ注目ください。



白神ももこ
滞在日程:2019年7月8日(月)~15日(月・祝)
滞在内容:『病める舞姫』の創作活動として
滞在アーティスト:白神ももこ、西井夕紀子、長峰麻貴



振子びじん
滞在日程:2019年6月18日(火)~6月30日(日)
滞在内容:「音で観るダンスのワークインプログレス」の創作活動のため/2019年8月31日(土)KAAT 神奈川芸術劇場にて上演予定
滞在アーティスト:振子びじん、田中みゆき、大崎清夏



スペースノットブランク
滞在日程:2019年11月25日(月)~12月6日(金)
滞在内容:スペースノットブランクが2019年1月、3月、5月と継続して上演する「フィジカル・カタルシス」に関する持続可能性のためのリサーチと創作活動として
滞在アーティスト:小野彩加、中澤陽



康本雅子
滞在日程:2019年7月1日(月)~8日(月)
滞在内容:康本雅子新作公演の創作活動として/2020年2月21日(金)~23日(日)ロームシアター京都にて上演予定
滞在アーティスト:康本雅子、小倉笑ほか



カンパニーデラシネラ
滞在日程:2020年1月
滞在内容:カンパニーデラシネラ新作公演「どこまでも世界(仮)」の創作活動として/2020年2月下旬 KAAT 神奈川芸術劇場にて上演予定
滞在アーティスト:小野寺修二、藤田桃子、大庭裕介、崎山莉奈

振子びじん[ねじ・びじん] / 2004年まで大路駝艦に所属し、鷹赤兒に師事する。舞踏で培われた身体を元に、自身の体に微視的なアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。2011年、横浜ダンスコレクションEX審査員賞、フェスティバル/トーキョー公募プログラムF/Tアワード受賞。京都在住。生活にダンスの杭を打ち込むべく「ダンサーズ」を主催し、定期稽古を行う。

康本雅子[やすもと・まさこ] / 1974年東京生まれ。自身のダンス作品を国内外で発表するほか、演劇や広告、MVの振付など多岐に渡るジャンルで活動している。また教育機関でのワークショップも多数行っており、近年では小学生や高校生との作品制作も行う。12年からは福岡へ、15年から京都へ移住。17年には母と子をテーマにした作品「子ら子ら」を国内3都市にて公演。また毎夏ロームシアターにて、こどもディスコのナビゲーターも務めている。

白神ももこ[しらがももこ] / 東京都出身。自ら作・演出するモモンガ・コンプレックスでは、ダンス・パフォーマンス的グループと名づけ、ダンス的な要素を用いながら世界の端っこに焦点をあてる。長峰麻貴(舞台美術)、西井夕紀子(音楽)とのユニットかんきつトリオを組み、場所を問わずどこでも互いの相互作用で作り出されるパフォーマンスアーツを目指している。

スペースノットブランク / 小野彩加(舞台作家、ダンサー)と中澤陽(舞台作家、パフォーマンス)の2人によるコレクティブ。2017年、第8回せんがわ劇場演劇コンクールにてグランプリ受賞。2018年、下北ウェーブに選出。同年、高松アーティスト・イン・レジデンスに招聘。舞台芸術の既存概念に捉われず新しい表現思考や制作手法を取り入れながら舞台芸術の在り方と価値を探究している。

カンパニーデラシネラ / 2008年設立。マイムをベースに台詞を取り入れた独自の演出で、世代を越えて注目を集めている。国内での活動のほか、海外公演など多数。また古典名作シリーズ(第1弾『ロミオとジュリエット』、第2弾『ドン・キホーテ』)では、身体性に富んだ演劇作品で小中学校巡回公演を行い、次世代へのアプローチに積極的に取り組んでいる。その他、野外や美術館、アートフェスティバルなど、劇場内にとどまらない場所でのパフォーマンスも多い。



知識製造業
San-en 三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
豊橋町48 TEL.54-4848

魚伊 有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市花中町 160-9 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心 安全な地下駐車場
パ-ク500 ソウの親子の看板が自印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌 院長 塩之谷 香 副院長 市川義明
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 **命あくわ**

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ほん 豊川堂
本店・カルミア店・アピタ向山店・プリオ豊川店
セントファールレ田原店・ささしまグローバルゲート店

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

生活にファインクオリティ
sala



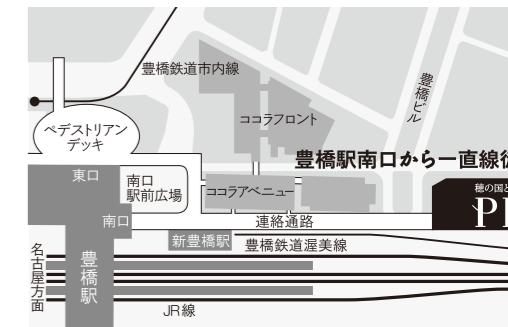
チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター
電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00~19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
 - 2 インターネットでチケット予約ができます。
 - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内
ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00~22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 **PLAT**